

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	大阪大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オオサカダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	自治体インターンシップ演習基礎／自治体インターンシップ演習応用
	学部・研究科等名	法学部
	担当教職員名・役職	高橋明男・教授
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	2	
受入企業等数	2	
受入企業等名	豊中市役所、吹田市役所	
インターンシップの分類	10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	豊中市の法務・コンプライアンス課において、例規審査及び原課からの法務相談に陪席し、指示を受けて意見・報告をまとめる作業に従事した。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	学部1～4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	夏学期に実施する自治体インターンシップ演習基礎において、法学部学生が自治体のインターンシップに参加するにあたって身につけておくべき行政法の基本的な知識を確認し、夏学期にインターンシップに参加する。その成果を秋学期の自治体インターンシップ演習応用において発表し、理論と実務の結びつきを再確認する。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	受け入れ担当部署の自治体職員と連絡をとり、インターンシップに係る問題の把握に努めている。	

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	夏学期に実施する自治体インターンシップ演習基礎において、法学部学生が自治体のインターンシップに参加する上で必要な行政法の知識の再確認を行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	秋学期に実施する自治体インターンシップ演習応用において、学生のインターンシップの成果を報告させ、理論と実務との結びつきを確認し、理論学習にフィードバックさせている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	受け入れ部署の担当職員と連絡をとり、インターンシップに係る問題の把握に努めると共に、受け入れ部署において作成する日報によりインターンシップの従事状況を把握している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ参加後に実施する自治体インターンシップ演習応用において、インターンシップの成果をレポートにまとめて報告させ、理論学習と実務との結びつきを再確認する機会としている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの期間は提携する自治体の受け入れ部署によって異なるが、5日間以上を確保できる部署を選択するように指導している。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	自治体インターンシップ演習の科目を設計するにあたって、豊中市、吹田市等と協議を行い、科目の目的とインターンシップとの関係を理解してもらっている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	大阪大学
	担当部署名	教育・学生支援部 学生・キャリア支援課
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	06-6850-6115
	メールアドレス	gakusei-sien-career@office.osaka-u.ac.jp